



千葉労働動向

ストがく聞えり且

当局の介入粉碎し 勝利的にスト貫徹

館山

一一、一二第一波ストに続き、認したのである。
館山支部は一一、二六第二波ストに本部指令のもと、断固決起した。

二六第二波ストは、久しぶりに始発からのストということ、当局のスト妨害のエスカレーションが事前より公言されるなかでの闘争であり、館山支部では、二二第一波スト終了後直ちに本部指令にもとづいて万全な闘争体制を構築し決起していったのである。

二五日、すでに千葉運転区等では、スト前日にも係わらず、組合役員や組合員の組合事務所への出入りを完全にシャットアウトするなどという露骨なスト妨害が行なわれるなか、夕刻より山田派遣執行委員から情勢報告を受け、当局の出方次第では全ゆる戦術を駆使して闘う体制を構築し、スト前夜集会を開催していった。

スト前夜集会では、業務以外の全組合員が組合事務所前に集まり、笹生支部長からの「第二波ストを館山支部は全力で闘おう」との檄を結集した全員が確

一糸乱れずストを貫徹し

勝浦

勝浦支部における「動乗勤改悪」粉碎、第一波、第二波ストは、全組合員の総決起のもとに意気高く打ち抜かれた。
支部は、動乗勤ストライキの総決起大会として十五日の支部定期大会を成功させ、二〇、二一日と新旧役員選出の組合員個別オルグを行った。

二二日、十一時三〇分、運転区駐車場に勤務以外の全組合員が結集、十二時過ぎにストに突入した指導、技術、勤務途中でストに入った乗務員を迎え、ストライキ突入集会を開催した。
その後、市民会館に移り集会を続行。この中で動乗勤の問題点、列車無線の取り扱いについて意志統一をかちとった。十四時、本部からの立ち上がり準備指令を受け、組合員の一糸乱れぬ協力のもと、スト突入に匹敵する整然とした立ち上がりをを行い、動労千葉の結束力を内外に示した。

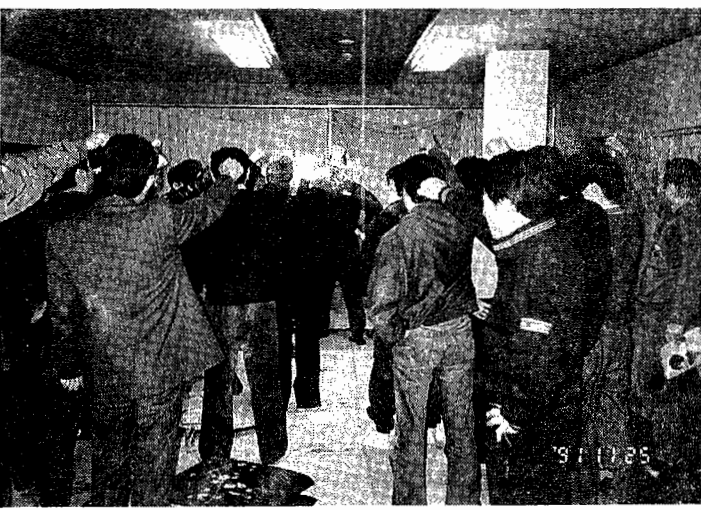
第二波第四波ストを誓う

津田沼

明るく、元気一杯で、力強い今回のストライキは、トを闘うことを誓い集約した。

本日に労働者の心からの怒りを表す闘争であった。
一一、二二ストは、スト突入と同時に、所定では山田支部長が乗る仕業にJR東労組の佐藤和美が乗ると分かり怒りが噴き出した。普段は「動乗勤は白紙撤回だ」などと嘘ぶいていたにもかかわらず、所定の仕業(当日は八仕業)を変番してまでスト破りを行ったのだ。支部組合員は怒りに燃えて十六時までのストライキを闘い抜いた。

一一、二六ストは、当局が宿泊施設から乗務員を排除するという暴挙に、さらなる怒りの実力ストを叩きつけた。二五日の前夜集会では、京葉、総武の仲間たちも結集して共に闘い抜くことが確認され、二六日始発からストに突入した。
さらに、立ち上がりでは、最高二時間五八分も無価値労働とされ、その間の責任の所在についても当局は一切答えられず、いかに不当であるかが明らかとなった。
この一一、二二、二六ストを皮切りに、「動乗勤改悪」を許さず、JR総連打倒へ第三波、第四波ス



動乗勤改悪阻止へスト突入(25日前夜集会にて)